

宗川 障がいをもったお子さんに準じるお子さんが、毎年少しずつ増加傾向にある中で、支援している保育士の数は13人ですが、これから先もこの人数で対応していくのでしょうか。

一人一人のお子さんの状況を踏まえ、障がいに準じる子どもが十分な支援を受けられるよう、保育士の確保などを考えていく必要があります。保育士の対応については、集団での保育が難しい子どもが年々増えていること、社会的に保育士不足が続く中で臨時職員の確保も困難なことから正規職員を増員していきます。

宗川 待機児童ゼロを継続していくには、今から具体的な対策を講じる必要があると思いますが、何か考えはありますか。

現在、令和2年度から5年間を計画期間とする「鎌ヶ谷市子ども・子育て支援事業計画」を策定中です。待機児童対策と保育士の確保のための処遇改善は、民間保育事業の誘致と保育士の処遇改善のための補助を継続的に実施し、また公立保育園については障がいのある子どもの受入れにも十分な対応ができるだけの保育士の確保が重要であると考えています。

まとめと要望

公立保育園の保育士については、地方公務員法上の制約があって、手当等の加算が出来ません。今出来ることは、「働きやすい職場環境」を早急に作って、これを市内外にPRしていくことだと考えます。市の【就職氷河世代対象の職員採用試験】の実施がマスコミでも取り上げられて全国から注目されております。4月まで残り3か月を残すのみとなりました、**待機児童ゼロを継続するために、魅力ある保育園の職場環境づくりと併せて、保育士の確保を要望しました。**



宗川よういちの追跡！

12月17日に「第3回鎌ヶ谷市コミュニティバス運営検討委員会」が開催され、「ききょう号」のルートの見直しや乗継などの提言をまとめて委員会が終了しました。今後は、提言を受けて、市が運行計画の見直しを行っていきます。

昨年6月の一般質問で『コミュニティバス「ききょう号」の運行計画の見直しについて』を取り上げましたが、引き続き東初富地区、南初富地区、丸山地区、東鎌ヶ谷地区などから市役所や鎌ヶ谷総合病院などに直接行くことが出来るように南線のルート変更や東初富地区内への新たな運行ルートの追加などについて取り組んでまいります。

さらに東鎌ヶ谷地区では民間バスから「ききょう号」への乗継を可能にすることについても取り組んでまいります。



好きです！このまち かがや！

鎌ヶ谷市議会議員

そ う か わ

宗川 よういち

つなげよう！
～未来のふるさと、かがやへ～

宗川よういち事務所 〒273-0122 鎌ヶ谷市東初富3-8-47
TEL・FAX 047-412-2189
E-Mail sohkawa-yohichi@jcom.zaq.ne.jp

日頃より、宗川よういち、並びに後援会にご支援をいただき、ありがとうございます。

今年は東京2020オリンピックの聖火リレーが行われ、本市の魅力を市内外に発信していく良い機会となります。また新京成線の2線高架化により、高架下の活用や初富駅・北初富駅の駅前広場の整備など、新たなまちづくりに向けて弾みをつけていくステップの年にもなります。

引き続き初心を忘れず、行政での34年間の経験と多彩なネットワークを活かし、「賑わいのある安全・安心のまち鎌ヶ谷」を市民の皆様と共に目指してまいります。

さて、私が12月会議(市議会では「通年議会」を採用することになりましたので、これまでの「〇月定例会」が「〇月会議」となりました。)の一般質問で取り上げましたのは、「表彰制度とまちづくりについて」と「保育を取り巻く状況と今後の課題について」の2点でございます。

ぜひ、市民の皆様のご意見をお聞かせください。
どうぞよろしくお願ひします。

そうかわ
宗川よういち

そうかわ
宗川よういち プロフィール

鎌ヶ谷市東初富3丁目在住

昭和32年9月 東京都葛飾区新小岩に生まれる	鎌ヶ谷市青少年相談員 第10～13期
昭和51年3月 千葉県立国分高校卒業	初富小学校おとうちゃんの会
昭和56年3月 中央大学理工学部卒業	中央大学白葉会 特別会員
昭和56年4月～ 日立プラント建設(株) (株)日立製作所と合併)	家族 妻、娘2人、息子2人の6人家族
昭和59年4月～ 鎌ヶ谷市役所入庁	趣味 映画鑑賞、山登り、釣り
平成30年3月 鎌ヶ谷市役所を定年退職	好きな言葉 一期一会、ありがとう



1 表彰制度とまちづくりについて

一般質問 自治会に表彰候補者の推薦をして頂く・・・
新たな表彰制度の設立を！

市政に功績のあった方々を表彰することは、まちづくりを進める上で大変重要なことです。この表彰制度を市民との協働や市政運営の一環として、活用していくにはどのようにすればいいのかわかり、特に高齢者や市民ボランティアの活性化に活用していく方策はないのか、現状の表彰制度の課題を明らかにして、今後の対応策について質問をしました。

宗川 本市の表彰制度の概要について伺います。

市政功労表彰は、鎌ヶ谷市表彰条例及び同施行規則に基づき「功労表彰」と「善行表彰」により表彰しています。その他、鎌ヶ谷市感謝状交付規程に基づき「感謝状」を交付しています。審査の方法は、各部署から候補者の推薦書が秘書広報課に提出され、表彰審査会を開催し、各候補者の審査が行われ、最終的には市長が決定します。

宗川 各部署で候補者の把握が重要である。一例として学校の通学路の安全を確保していただいている①学校ボランティア、②交通安全推進隊、③その他自主的に見守りを行っている方々を各学校（教育委員会）では、どのように把握していますか。

①学校ボランティアは、登録制のためお名前やご住所などを把握しています。②交通安全推進隊は、千葉県のため、隊員一人一人の個人情報をお知らせすることが出来ません。③その他自主的に見守りを行っている方々（自治会など）は、活動状況は把握していますが、一人一人のお名前やご住所、具体的な活動実績までは把握できていない状況です。

宗川 表彰対象となる基準年数が、功労表彰で15年以上、感謝状で7年以上ですが、見守りをして頂いている方々の活動年数については、把握していますか。

お名前やご住所を把握している方々についても活動年数については把握しておりません。

宗川 活動年数を把握していないということは、表彰対象者として挙がってこなかったということになりますが、いかがでしょうか。

推薦の前提となる名簿の整備や引継ぎを行っていないため、通学路の安全確保に係る活動を功績としたボランティアの推薦は行っておりませんでした。こうした方々の善意の活動は、地域と連携した学校づくりという意味からも名簿の整備を行う必要がありますので、今後の方策について検討していきます。

宗川 このような状況をどのように認識し、今後、教育委員会として、どのように対応していきますか。

今後は実態の把握に努め、極力、市の表彰規定に基づき推薦できるような方策を検討して、子どもたちの安全確保に尽くされている方々の功績に報(むく)いていけるようにしていきます。

宗川 複数のボランティアをして頂いている方々の実態を把握することは、さらに難しい。新たに自治会に広く候補者を推薦して頂く仕組みを設けることについてはいかがですか。

自治会からの推薦枠の設定については、今後、他市の状況なども調査研究していきます。

宗川 この表彰制度を市民と協働のまちづくりや市政運営の一環として、幅広く活用していくことで、特に高齢者や市民ボランティアの活性化につなげることができます。今後のまちづくりに積極的に活用していくことについて伺います。

令和3年度は市政施行50周年を迎える年となりますので、その中で様々な分野で市のために貢献された方々に報(むく)いていけるように、幅広く表彰制度を活かせるような方策について検討していきます。

まとめと要望

長年、市政のために頑張った方、特に高齢者や市民ボランティアの方々が今までやってきたことが認められると、次も頑張ろうという「ヤル気」につながります。この「ヤル気」が次のまちづくりにつながっていくのではないかと考えます。

今後、策定される基本計画や実施計画の中で、市民活動を支える好循環の一つとして、この表彰制度の位置づけをしていただくように要望しました。



2 保育を取り巻く状況と今後の課題について

一般質問 待機児童ゼロの継続に向けて、保育士の確保を！

昨年10月から幼児教育・保育の無償化が始まりましたが、現段階で新たな課題や影響が出ているのか、その課題を明らかにして、待機児童ゼロに向けての対応策について質問をしました。

宗川 幼児教育・保育の無償化後の保育の現状と課題について、伺います。

無償化後の保育所の申し込み状況は、昨年と同じ時期と比較して10月から12月までの期間では増加がありませんでした。ただし、無償化により経済負担が大きく軽減されたこと、また女性の就業率の高まりなどから保育所利用者が増加することを見込んでおり、このような状況の中で、待機児童ゼロを継続していくことの課題があります。

宗川 障がいをもったお子さんなどの受入れも公立保育園の役割になりますが、公立保育園で障がいをもったお子さんなどは、過去5年間に何人いて、お子さんの支援に、何人の保育士が配置されているのでしょうか。

年度	障がいをもったお子さん	障がいをもったお子さんに準じるお子さん	合計	支援している保育士の数
平成26年度	6人	20人	26人	13人
平成27年度	4人	24人	28人	13人
平成28年度	3人	27人	30人	13人
平成29年度	5人	28人	32人	13人
平成30年度	6人	29人	35人	13人

年々、増加傾向にある

毎年、変わらない